

2019年5月15日

各位

会社名 夢 展 望 株 式 会 社
 代表者名 代表取締役社長 濱中 眞紀夫
 (コード：3185 東証マザーズ)
 問合せ先 取締役管理本部長 田 上 昌 義
 (TEL. 072-761-9293)

**当社及び連結子会社の減損損失等の計上並びに
 連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ**

当社は、2019年5月15日開催の取締役会において、以下のとおり、減損損失等の計上を行うとともに、2018年11月13日に公表いたしました2019年3月期（2018年4月1日～2019年3月31日）の連結業績予想と実績値に差異が発生しましたので、お知らせいたします。

1. 当社及び連結子会社の減損損失等の計上について

当社は、持続的な成長に向けた費用を計上することとし、また、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき当社並びに連結子会社であるナラカミーチェジャパン株式会社（以下「ナラカミーチェジャパン」といいます）及び株式会社トレセンテ（以下「トレセンテ」といいます）の足許の事業環境及び今後の業績見通し等を勘案し、下記のとおり減損損失等を計上することといたしました。

記

(1) 当社の減損損失等の主な内容

分類	内容	金額
持続的な成長に向けた費用	①物流センター移転費用（未払金）の一括計上	18百万円
	②トレセンテ株式（取得費用）の減損損失	19百万円
	③店舗の固定資産の減損損失	8百万円
その他	④株主優待費用の引当金計上	11百万円

(補足説明)

- ①2018年7月に物流センターを千葉県印西市から同県柏市に移転した際に発生した移転にかかる費用について、分割計上としておりましたが、今般、その他費用として一括計上することといたしました。
- ②トレセンテ株式の取得時に発生した取得費用を関係会社株式として計上しておりましたが、トレセンテの業績不振に伴い、減損損失を計上いたします。
- ③実店舗の業績が不振のため、実店舗の固定資産について減損損失を計上いたします。
- ④これまで株主優待の実施時に費用計上をしておりましたが、株主数の増加に伴い、2020年3月期中に発生する見込みの株主優待にかかる商品代等の費用を引当金として計上いたします。

(2) 連結子会社 ナラカミーチェジャパン株式会社の固定資産除却損等の主な内容

分類	内容	金額
持続的な成長に向けた費用	①店舗の固定資産除却損	2百万円
その他	②商品の確定購入契約による引当金	44百万円

(補足説明)

- ①不採算店舗の閉鎖等に伴い、固定資産除却損を計上いたします。
- ②イタリアのブランド元と確定購入契約を締結しており確定購入契約引当金を計上し

ておりますが、直近の商品消化率実績が低下していることから、確定購入契約引当金を売上原価にて追加で44百万円を計上いたします。

(3) 連結子会社 株式会社トレセンテの減損損失等の主な内容

分類	内容	金額
事業の成長を促進するための費用	①店舗の固定資産の減損損失	7百万円
	②無形固定資産の減損損失	21百万円
	③投資その他の資産の減損損失	1百万円

(補足説明)

- ①業績不振に伴い、固定資産の除却損失を計上いたします。
- ②基幹システム等の入れ替えを検討しているため、現システム（無形固定資産）について減損損失を計上いたします。

2. 連結業績予想と実績値との差異について

(1) 2019年3月期の連結業績予想数値と実績値との差異（2018年4月1日～2019年3月31日）

	売上収益	営業利益	税引前利益	親会社の所有者に 帰属する当期利益	基本的1株当 たり当期利益
前回発表予想 (A)	6,700百万円	600百万円	500百万円	440百万円	39円90銭
当期実績 (B)	6,917百万円	△179百万円	△253百万円	△268百万円	△23円67銭
増減額 (B - A)	217百万円	△779百万円	△753百万円	△708百万円	—
増減率 (%)	11.7%	—	—	—	—
(参考) 前期連結実績 (2018年3月期)	5,075百万円	583百万円	541百万円	544百万円	51円29銭

(2) 差異の理由

当連結会計年度におきましては、中核事業であるアパレル事業及び連結子会社の夢新開発（香港）有限公司が担っております玩具事業を中心に、概ね好調に推移いたしました。ジュエリー事業のコスト増加による業績不振及びコンサルティング事業の進捗遅れ並びに上記1.に記載のとおり、将来に向けての持続的な成長に向けた費用を計上するとともに、減損損失を計上することとしたこと等もあり、前回発表した業績予想と実績値に差異が発生いたしました。

以上